

# 児童心理

[Child Study] 子どもの心を育む教師と親のために

9  
2018  
No.1061

特集

## 子どもの心をつかむ先生

- 「共感力」と「対応力」
- 「先生のものさし」だけでは、はかれない子どもの心
- いい学級づくりをしてくれる先生
- 先生が信用できない子
- 子どもの危機・立ち直りを支えた先生
- 教員の働き方を考える

連載

## 子どもの性被害と性加害

野坂祐子

## 学校外の子どもの今

〈人形劇で育つ〉岡本和彦



児童心理

Child Study

「特集」

子どもの心をつかむ先生

児童心理9月号

定価916円

本体848円

2018

9

金子書房

昭和22年4月28日第二種郵便物認可  
平成30年9月1日発行 第72巻第10号

●「人生」を考える新学習指導要領のメッセージとは

教育フォーラム62 **最新刊**

A5判・160頁 本体 2,400円+税

## 人生や社会をよりよく 生きる力の涵養を

新学習指導要領が最終的に目指すもの

梶田叡一 責任編集 日本人間教育学会 編

大きく動きつつある現代社会において、子どもたちは社会生活や職業生活の在り方に対応する力を身につけなければならない。しかし、「人間」そのものが見失われ、「社会的に役立つ駒」を育成する教育となってしまうのではなく、その土台となる「人生」の充実の大切さを新しい学習指導要領では示している。具体的にどのような授業展開をすればよいのか、よりよく生き力を育むための工夫と実践を紹介する。



人生や社会をよりよく生きる力の涵養とは(梶田叡一) / 国語教育を通じて人生や社会をよりよく生きる力の涵養を(鎌田首治朗) / 読書を通じて人生や社会をよりよく生きる力の涵養を(湯峯 裕) / 算数教育を通じて人生や社会をよりよく生きる力の涵養を(金山憲正) / 生き方を深め、生きる力を涵養する自然観察(菅井啓之・西村紗貴) / 和文化教育を通じて人生や社会をよりよく生きる力の涵養を(中村 哲) / 【特別寄稿】発達支援を通じて人生や社会をよりよく生きる(八木成和) / 生活の質の向上と正常な社会機能の形成をめざす教育(今西幸哉) ほか

主な内容

●「見方・考え方」を授業で生かすために

教育フォーラム61

A5判・152頁 本体 2,400円+税

## 各学習領域における 基本的な見方・考え方

アクティブ・ラーニングで鍛えられるもの

梶田叡一 責任編集 日本人間教育学会 編

「見方・考え方」は高次な学習の土台として期待される視点の1つである。各教科等の特質を踏まえた教員の在り方を具体的に論じ授業実践を提案する。

主な内容 〈見方・考え方〉とは何か(梶田叡一) / 読解力の育成と〈基本的な見方・考え方〉(鎌田首治朗) / 思考力の育成と〈基本的な見方・考え方〉(湯峯 裕) / 算数科における〈基本的な見方・考え方〉(金山憲正)

既刊好評発売中

- 60 深い学びのために…………… 本体 2,400円+税
- 59 対話的な学び…………… 本体 2,400円+税
- 58 主体的能動的な学習…………… 本体 2,400円+税

〒112-0012 東京都文京区大塚3-3-7

**金子書房**

☎03(3941)0111(代) FAX03(3941)0163  
URL <http://www.kanekoshobo.co.jp>

雑誌 05143-9  
Printed in Japan



4910051430984

00848

## コーチングを活用したコミュニケーションの極意

### 一 増加する不登校

文部科学省から平成三〇年二月二三日に発表された「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、平成二八年度の小・中学生の不登校生徒の割合は、三・〇一%で約三三人に一人の割合であると発表された。また、その原因として、「学校における人間関係」に課題を抱えている」が一七・九%、「無気力」の傾向がある」が三〇・八%、「不安」の傾向がある」が三〇・四%であった。これらから今後を見据えてみると、教師が「いかに子どもの心をつかむか？」が最重要課題となっていることがわかる。

ここでは、この課題に直面するために、コーチングの

考え方を活用したコミュニケーションの極意を紹介する。

### 二 子どもの味方になる

子どもが信頼する大人はどのような人だろうか？

・尊敬できる人 ・言葉と行動が一致している人 ・好きな人 ・信頼できる人 ・経験豊富な人 ・人間味がある人 ・一緒にいて笑える人 ・温かな雰囲気のある人 ・行動力のある人 ・包容力のある人 ・正直な人 ・話を聴いてくれる人 ・芯がしっかりしている人 ・誠実な人 ・約束の守れる人 ・悪口を言わない人 ・表裏がない人 ・寛大な人 ・長所も短所も受け入れてくれる人……

など、教え上げればきりが無い。結局は、子どもにとって自分の存在をわかってくれる人に、安心感を感じるようである。これは、理屈ではなく感情の作用である。大人になれば厳しくされる人にも好意を寄せることもあるが、いずれにしても背景に豊かな人間関係が必要である。

コーチングではこのように、自分のことを理解し、心から信頼できる人を「味方」と言う。子どもの心をつかむためには、まず味方になることである。

子どもの味方として一番身近な存在は「家族」である。家族が、いつも愛情をかけて見守っていれば、問題が起りにくいものである。しかし、最近では家庭での人間関係が疑われる場面も増えてきた。

であるならば、「教師が味方になる」ことが必要だ。

味方は、いわゆる「イエスマン」ではない。子どもの言いなりになることではない。子どもの感情を全身全霊で受け入れることは必要だが、言動に妥協するとか、子どものわがままをただ単に受け入れることとは違う。

子どもの味方になるためには「観察力」が必要である。子ども自身が調子の良いときであれば、問題が起りにくいのだが、調子が悪かったり、不安を感じている

ときは、その状態を瞬時に把握することが必要である。

それには、ちょっとした言動や表情の違いを見極める必要がある。日常的に子どもの変化に敏感になることである。

子どもの変化は「視線」や「言葉づかい」「行動」に表れる。例えば、ポーツとしている、外ばかり見ている、視線や行動が安定していない、否定的な言葉や自虐的な言葉を使っている、授業中に文房具ばかりを触っていたり、落書きをしているなどの変化が見られたら要注意である。

### 三 子どもとのズレを修正する

子どもの心をつかむ最良の方法は「心で聴く」ということである。子どもは「話を聴いてもらっている」「それも「興味を持って聴いてもらっている」と感じると、受け入れられていることを実感し、安心して話をするようになる。そのための方法として「おうむ返し」を紹介する。

おうむ返しとは、子どもの話をそのまま繰り返して、子どもに言葉を返すことである。子どもとの会話内容から

キーワードを繰り返したり、語尾だけを繰り返したりすることもある。

○ 同じ言葉をそのまま繰り返す

教師「なにかあったの？」

子ども「筆箱を忘れてきちゃった」

教師「そうか、筆箱を忘れてきちゃったんだね」

同じ言葉をそのまま繰り返すことによって、子どもは「聴いてもらった」「受け止めてもらえた」という感覚を覚え、これが安心感につながる。

○ キーワードを繰り返す

教師「休みの日はみんなで公園に遊びに行っているよだね」

子ども「公園でソフトボールをしたりすると気持ちがいいです。小学生もいっぱい来ています。だから、ちょっと危ないかも」

教師「そうか。小学生も多くて危ないんだ」

子ども「そういうときは虫を探すことにしています。あの公園は結構いろいろな虫がいて、小さいときのことを思い出します」

教師「そうか、公園にいろいろな虫がいるんだ」

子どもの発言が長いときは、すべてを繰り返すことは

「先生も考えを少しだけ述べてもいいかな？」

最初のこの一言で「命令」「押し付け」ではなく、上位の立場からの物の見方と感じさせることを避けることができる。子ども自身に提案を聴くかどうかの決定権をもたせることで、子どもが主人公であるという立場を尊重する。

他にも、いくつか紹介しよう。

「ちょっとだけ先生にも、話させてもらっていいですか？」

「このことについての先生の考えが聴きたかったら言ってみてね」

「そのことについて、先生も少し知っていることがあるのだけど……」

「先生の提案を聴いてみて、何か感じたことはありませんか？」

この提案は、あくまで子どもにとっての選択肢の一つである。子どもが、自分が選んでよかったと思えなくてはいけない。上手な提案とは、教師側の答え、正しさ、責めがなく、それでいて子どもにとっては、やりたいという感情がわくような選択肢の一つになることである。

次に、「リクエスト」である。リクエストとは、教師

できない。重要なキーワードを取り出して繰り返す。おうむ返しすることで「私はあなたの話を一語一句しっかりと聴いていますよ」という合図になる。そして、新しい発見があることもある。

#### 四 教師の考えを伝える

子どもの心をつかむことが大切であるからといって、何も指示せずに、聴くだけという教師がいる。若い先生に時々みられる傾向である。

学校生活では、教師が考えを伝えなければいけないことは数々ある。重要なことは、子どもに「命令」や「押し付け」ととらえられないことである。子どもに教師の考えを素直に受け入れてもらえる方法として「提案」と「リクエスト」がある。

まずは、上手な提案の仕方について説明する。

提案の言葉を発する前に、まず言わなくてはいい一言がある。提案内容が、子どもに主導権があると感じさせる必要があるからである。

「今、いくつか思ったことがあるんだけど、話してもいいかな？」

がしてほしいことを子どもに要望することである。

教師は、子どもにしてほしいことを直接リクエストすると、子どもはそれに応えようとする場合が多いものがある。それは、子どもにとって「当たり前のこと」「当然やらなくてはいいけないこと」であることが多いからである。だから、リクエストが、子どもにとって後から「後押し」と感じるか、教師による命令と感じるかで行動が全く異なってくる。例えば、「明日までに、宿題をやってきなさい」という。これを「命令」ととるか「後押し」ととるかで変わってくるということである。教師のリクエストが、子どもにとって有効であり、「後押し」として感じられる状況にするいくつかのポイントを紹介しよう。

- ・子どもにとって、すでに自信があり、ちょっと行動すれば成果が得られると感じさせること
- ・具体的に何をしたらよいかを明確にすること
- ・いつまでにそれを終えてほしいのかを明確にすること
- ・教師の体験が子どもにとって有効で、成果につながると思わせること
- ・具体的に何を子どもにしてほしいのか、あるいは達成してほしいのかを理解させること

・その具体的行動の背景（なぜそれが大切なのか）を明確にすること  
・教師がリクエストに対して自信をもち、感情を込めて行うこと

## 五 人間力と社会人基礎力を鍛える

教育界では「何を言うかより、誰が言うか？」などと言われることがよくある。「廊下を走るな！」と叱られても、注意する先生の違いによって、子どもの態度が全く違うのはそのためである。これは、教師の人間力が関係している。では、この人間力とは何だろうか？

少し古い資料だが、平成一五年四月一〇日に内閣府人間力戦略研究会が「人間力戦略研究会報告書」で人間力を「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と定義している。そして、具体的な構成要素として、①知的能力的要素（「基礎学力」「専門的な知識・ノウハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力。また、それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」「創造力」など）、②社会・対人関係力的要素（「コミュニケーション

ションスキル」「リーダーシップ」「公共心」「規範意識」や「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力」など）、③自己制御的要素（これらの要素を十分に発揮するための「意欲」「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追求する力」など）があげられている。

また、人間力とかかわりの深い概念に経済産業省が提唱する「社会人基礎力」がある。これは「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」で、主体性、実行力、課題発見力、発信力などからなると定義されている。さらに、思いやり、公共心、倫理観、基礎的なマナー、身の周りのことを自分でしっかりとやる等が、基本的な生活習慣としてあげられている。

子どもの心をつかむ一番大切なことは、教師自身が、このような日々当たり前のことを積み重ね、研鑽し続けることである。

### 〈参考文献〉

人間力戦略研究会「人間力戦略研究会報告書」二〇〇三

経済産業省 <http://www.meti.go.jp/policy/kisoyoku/>

神谷和宏「子どもの自己肯定感UPコーチング」金子書房、

二〇一七

神谷和宏「自己有用感・自尊感情を育てるコーチング・アップ

ローチ」明治図書出版、二〇一七